

長野県須坂創成高等学校 令和4年度学校評価・学校関係者評価表

*評価の基準 A 十分に達成された B ある程度達成された C まだ不十分であるので来年に期待する (各評価の観点について左記のA～Cのいずれかで評価する)

学校教育目標					重点目標 (中・長期的目標)					ご意見・ご提言	
1 産業構造の変化に柔軟に対応し、職業人として必要とされる専門力と創造力を兼ね備えた地域産業の担い手を育成する。					【1】総合技術高校としての特色を生かし、農工商の枠を超えたより広い専門性と柔軟な実践力を養成する。					・須坂に根差し地元へ貢献できる人材の育成に力を入れてくださっている学校であると思います。ぜひ特色を生かしてください。 ・ならいどおりに生徒の育成ができています。 ・創成高校の皆様は年々重点目標どおりのイメージを高めていると感じます。 ・減少したとはいえ交通事故が多い原因は何なのでしょう。一件でも減るようにお願いします。	
					【2】地域に根ざした信頼される学校づくりをすすめ、地域社会を担う人を育成する。						
【3】自らに誇りを持ち、ルールやマナーを大切にす誠実で品格ある人を育成する。											
					今年度の重点目標					ご意見・ご提言	
2 生徒一人ひとりが輝く「明るい学園」を創造し、思いやりの心を大切にするひとづくりをとおり、社会に貢献できる人を育成する。					【1】学科を超えた交流の促進…総合技術高校の特色を生かし、学科間共通履修の「産業基礎」及び学科間連携科目の学習を行い専門教育を充実させる。課題研究発表や学校行事、クラブ活動等を通して、校内の活性化を図る。					・地元の人材育成のための教育活動を充実させてくださっていることがよくわかります。生徒たちの進路に向けて総合的に学べる良さがあると思います。 ・多様な学びができています。 ・丁寧な進路指導がされており生徒たちも納得感があるのではないかと。 ・学校と生徒の数々の取組は、社会とどのようなところでつながり、自分にどのような影響があるのか、あったのかを実感し前を向いていけるといい。そのような場が提供できればと考えています。 ・【4】は高校だけでは難しいと思います。家庭や中学校との連携が重要だと思います。	
					【2】心豊かな生徒の育成…主体的対話的な学びへの更なる転換を図り、互いのコミュニケーションの充実と人やものを大切にする心の醸成を図る。						
					【3】希望する進路実現…基礎学力の定着、専門性をもった体験的・実践的学習と共に、キャリア教育を推進する。						
					【4】道徳的実践力の醸成…ルールやマナーの遵守、他者を思いやる人権意識の涵養、いじめのない学校づくりを推進する。						
領域	対象	評価項目	該当学年	評価の観点	自己評価	成果と課題、改善策・向上策	評価A	評価B	評価C	ご意見・ご提言	
教育課程		① 産業基礎	1	産業人としての基礎力を養成するための授業が実施できたか。地域産業の理解をすすめることができたか。	A	地域資産の掘り起こしを目的とした地域学習や外部講師の講演により、産業人としての基礎力を身に付けるとともに、自らのキャリアプランの確立につなげることができた。	5	2		・創成フェアの売上金を寄付するという活動が素敵です。社会に貢献できることが素晴らしい。	
		② コース選択	2・3	コース選択に対する適切な指導ができたか。	A	1年総合実習にて各コースを体験し、説明会、面談を通し適切な選択ができた。(農)工業生産技術の学習内容からコースの特色を理解させ、説明会を行いきめ細やかな指導ができた。(工)各コースの説明会を実施し、自己の将来とつなげるよう適切な指導を実施できた。(商)	5	2		・創成高校は地元を大切に中学生にとって魅力ある学校です。将来の夢に向かっていろいろなコースで学べることが良いと思います。 ・かなり細やかな指導をされていると感じました。	
		③ 学科連携	2・3	他学科の生徒の学習に資するシラバスが作成され実施できたか。	A	専門知識の基礎・基本の定着と他学科との学習活動の融合により、自己の専門性を深化させながら、広い視野によるもの見方と学習姿勢の向上が図られた。次年度実施の新科目について各専門科の職員で連携を図り、科目設置の趣旨をふまえたシラバス作成を進めている。	5	2			
学習指導		④ 基礎学力の充実	全	学力補充が計画され、実施できたか。	B	年2回実施した基礎力診断テストの結果を生徒面談に活用し、学力向上に役立てた。	3	4			
			全	家庭学習の時間をもつための取組みができたか。	B	各教科に任せている部分多くあり、学習指導委員会として家庭学習を充実させるため検討が必要である。	2	5			
		⑤ 授業方法の工夫・改善	全	言語活動の充実を図るための実践ができたか。	A	授業評価アンケートを実施し、その結果を基にして授業内容を見直す中で基礎学力の定着を図った。読書仲間中に全校で朝読書を実施した。また、各教科担当と協力して学習内容に合わせた図書館オリエンテーションや資料の提供を行った。	5	2		・全生徒に合わせることは難しいと思いますが、努力されていることは評価できます。	
教育活動	生徒指導	⑥ 日常的な生徒指導	全	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に取り組めたか。	B	ほとんどの生徒は落ち着いた学校生活を送っている。2学期に一部生徒の授業に臨む姿勢について改善を要する事項が見られたため個別指導を行った。毎日の朝の立ち番指導が一定の抑止力になっていると思われるが、2学期後半から遅刻が増加してしまっ。全員で清掃に取り組むよう清掃用具を充実させた。	2	5			
			全	校則を守った身だしなみ指導ができたか。	B	頭髪や制服規定を一部改訂してから初めての年度となったが、大きな混乱はなかった。新校への移行も視野に入れつつ、生徒・保護者の意見に加え、時代の変化や性的マイノリティ等にも配慮しながら制服の必要性を検討していきたい。頭髪等、身だしなみが乱れた生徒には改善が図られるよう、その場での注意を行うとともに、家庭の協力のもと継続的に指導していく。	2	5		・登下校時の制服を含めたマナーに課題があると感じました。	
		⑦ いじめの未然防止	全	いじめの未然防止に努めることができたか。	B	年3回のいじめに関するアンケートを実施し、いじめの抑止や早期発見に努めたが、対応が遅れてしまった案件があった。いじめ事案の情報は全職員で共有し、担任・学年を中心に丁寧に指導・支援を行うことが重要である。生徒指導通信等の啓発活動を通じて、さらにいじめの未然防止に努めたい。	2	5		・いじめはあることを前提にいろいろな対応をしていく必要がある。	
		⑧ 教育相談体制	全	校内の教育相談体制がうまく機能したか。	A	担任・学年・係が情報を共有し、また、外部専門機関と連携を図りながら、生徒・家庭への支援を行うことができた。	5	2		・よくできている。	
		⑨ 家庭との連携	全	家庭との連絡を密にし、生徒指導に生かすことができたか。	A	普段から各担任等がこまめな家庭連絡を行っており、保護者とともに問題行動事案に迅速に対応することができた。	5	2			

進路指導	⑩	進路情報の提供	全	進路情報の提供が適切になされ、生徒の進路意識を高めることができたか。	B	校内の掲示板や進路通信を発行するなど進路意識を高めた。また、進路ガイダンスを実施するなど進路実現へ向けての道筋を示した。次年度は担任や生徒から広く意見を吸い上げ、より適切な情報提供に努めたい。	4	3	・アンケートを見ても一人ひとりに寄り添った指導をされていると思いました。	
	⑪	キャリア教育の充実	全	将来を見据えたキャリア教育とインターンシップを積極的に押し進められたか。	B	2年生を対象に須坂市主催の地元企業紹介事業を実施し、職業観の醸成を図った。3月には就業体験を実施する予定である。進路希望に沿った講師に来校していただき、自己理解や社会人としての在り方を考えることができた。また、1・2年生の公務員志望者を対象に外部の講師による講習会を定期的実施した。	4	3		
	⑫	学校行事の運営	全	創成フェア、課題研究発表会が各学科において意義ある行事となったか。	B	一般公開を実施した。各学科で展示・販売・実演を通して、学びを深めることができた。SDGsに加えエシカルについても学び、理解を深めることができた。今後は土日開催を含めより多くの来場者への対応を確立する必要がある。課題研究発表会は各学科の学びや研究内容を知ることができ有意義であった。他学科の学びを知り、尊重しながら協力して総合技術高校ならではの行事として発展させていくことが望まれる。	2	5	・創成フェアでの様々な取り組みは生徒にとって楽しい学びの成果があるものでした。寄付金の活動も素晴らしいと思いました。 ・毎回新しい工夫があると良い。 ・新型コロナが終息してもすべてが以前に戻る必要はないと思います。一番良い形になるようご検討ください。	
	⑬	生徒会行事の活性化	全	生徒会役員が広い視野を持って様々な活動を企画・運営し、個々の生徒が参加、活躍できるような場を提供できたか。	B	3年生執行部を中心に自主的な活動ができた。	3	4		
クラブ活動	⑭	クラブ活動の活性化	全	運動系クラブの練習が円滑に行えたか。	A	コロナ禍における制約を受けながら、各クラブとも充実した活動を行った。県大会において上位に進出するクラブが増えてきた。	4	3		
			全	文化系・専門系クラブ活動が充実、活性化したか。	A	各種コンクール、総合文化祭に出場した。創成祭や創成フェアにおいて日頃の活動の成果を発表することができた。	4	3		
学校運営	地域との連携	⑮	中学生に対するPR	全	体験入学等の機会を通じて中学生を広く集め、本校に対する理解を深めることができたか。	A	体験入学には、例年どおり多くの中学生に参加してもらえた。今後、学校紹介ビデオの制作など、より理解を深める方法を充実させたい。	5	2	・中学生にとって学校に魅力がよく伝わってきます。これからも宜しくお願いします。 ・中学生の志願倍率を高める大事な事業だと思うので、より充実させてほしい。 ・普通科ではできない体験や実践など前面に出してほしいと思います。
		⑯	地域への広報活動	全	公式Webサイトや広報紙を利用して本校の活動を適切に情報発信できたか。	B	WEBを通じた情報発信のほか、テレビ取材などとおして本校の特色を発信できた。今年度、新たにが学校公式のSNSも開始し情報発信の拡大に努めた。今後ホームページをリニューアルする予定。	4	3	
		⑰	生徒の校外活動の充実	全	地域との連携による生徒の自主活動ができたか。	B	須坂市役所・NPO法人等から講師を招き、地域課題に対する問題意識を持ち、各自が地域活性化に取り組む探究的な学習活動ができた。今後は、地域でのフィールドワークをさらに充実させる。	4	3	
運組織	⑱	総合技術高校の運営	全	3学科を備えた総合技術高校としての学校運営が適切になされたか。	B	学科連携学習を中心に本校の強みを活かした学習計画を進めることができた。また、課題研究において3学科が協働した研究活動を充実させる学習計画を進めていく。	4	3	・難しいですが是非、特徴を前面に出していただけるといいと思いました。	
研校内	⑲	特別支援教育等に関する事例研修	全	事例研修に基づく共通理解を持ち、実践につなげることができたか。	B	職員研修や事例を通して、発達障がいや学習障がいへの理解を深めることができた。対面とオンラインを併用した全校対象の人権教育講演会を実施した。引き続き人権教育の充実を図っていく。	2	5	・発達障害の生徒も楽しく学習できる学校としてのノウハウができていいと思う。	